

7 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」及び庄内オフィスの活動

（１）採択事業名

「地域力結集による人材育成と複合型課題の解決—庄内モデルの発信」事業

申請額は 2億5,100万円（5年間）

（２）公益大は庄内と連携し、地域の人材育成と地域課題の解決に取り組む。

この事業の採択により公益大を中心に、庄内の地域課題について産学官金およびNPO法人等を含めた地域住民が共に学び合い、解決策を考え、実際に行動する人材を育てるとともに、具体的な活動を展開する「庄内モデル」の構築と発信を行う。

（３）複合化する課題をより具体的に解決するために。26年度からカリキュラムを改編。

地(知)の拠点事業では、公益大は以下の事業に取り組む。

① 地域課題に対応したカリキュラムの改編

ア 庄内の地域課題に対して教育の側面から対応できるように、地域課題に則したコース編成とする。（1学科2系5コース・3特別プログラム）

イ 具体的な科目の設置においては、地域関連科目を増設するとともに地域課題等を分析し、解を見つける力を育む科目群を配置する。

② 地域リーダーを育てる体系的な教育プログラムの展開

ア「庄内地域カレッジ」を開講し、「地域を動かす人材・主体的に行動できる人材」の育成を目標とし、子ども、中・高生、大学生、社会人、と幅広い年代を対象とした体系的な教育プログラムを展開する。

③ 産学官民及び一般市民の参画によるプラットフォームの設置

ア 地域力を結集する組織として、産学官民等の参画による「庄内オフィス」を設置する。

イ「庄内オフィス」は、①課題解決アクションプロジェクト運営機能、②研究（シンクタンク）機能、③地域リーダー育成機能、④発信・アーカイブ機能を持つ。

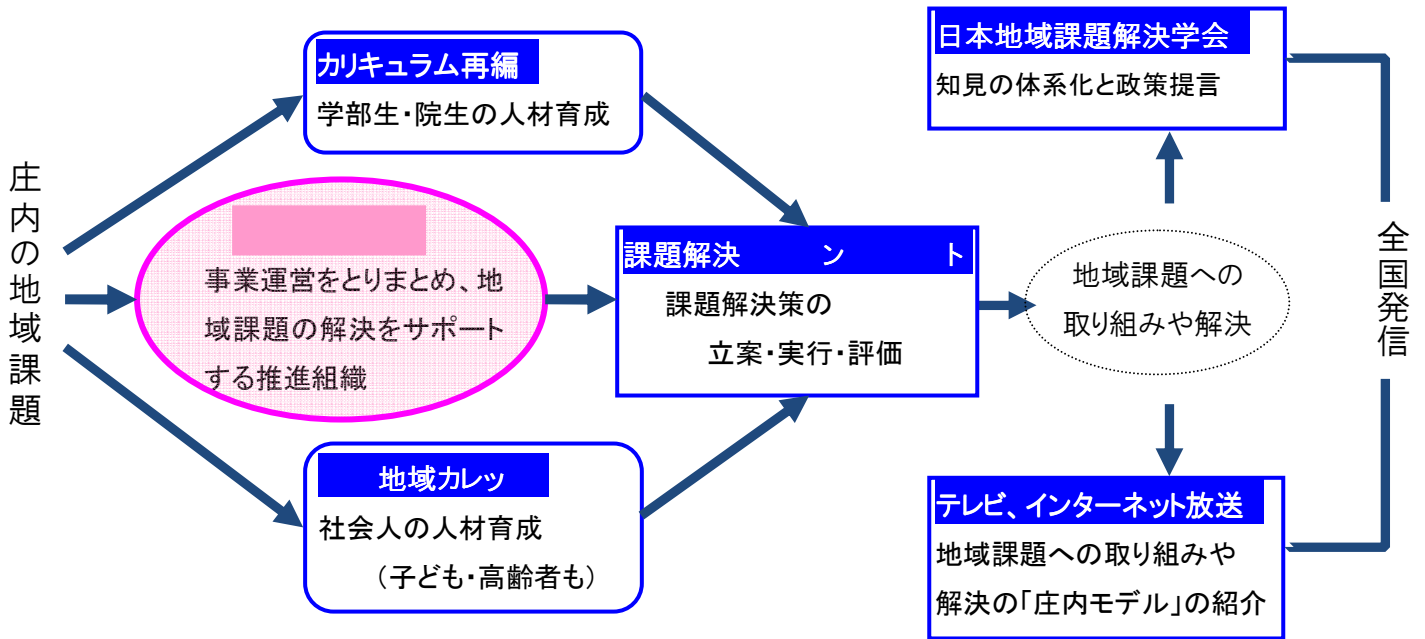
ウ 全国のCOC大学等に参加を呼びかけ、地域課題解決への取り組み、地域リーダーの育成等について全国レベルで議論を行う「日本地域課題解決学会」を設立する。

④「課題解決アクションプロジェクト」の実施

ア 具体的な複合型地域課題について、学生、教員、行政職員や若者（庄内カレッジ修了生）が、「課題解決アクションプロジェクト」として取り組み、課題の解決を目指す。

⑤ 活動を映像としてアーカイブ化した地域課題解決の「庄内モデル」の発信

ア 上記の一連の活動を映像としてアーカイブ化し、「庄内モデル」として、インターネット上の動画配信等で発信する。



事業実施の流れ

【全体会議】

連携自治体および協力企業・団体と庄内オフィスにより、事業の計画や報告をおこなう会議

【地域課題共有検討会】

連携自治体および協力企業・団体と庄内オフィスにより、地域課題を共有・検討する会議。7つのテーマを切り口とする。

1. 就業機会・雇用の創出

2. 交流人口の拡大・観光産業の創出

3. 農商工連携・6次産業化の推進

4. 地域エネルギー対策

5. 主体的なコミュニティ組織

6. 中山間・離島地域の集落の維持

7. 空き家・空き店舗等中心市街地の空洞化

【円卓会議】

地域課題共有検討会において取り上げられた各課題について、
地域の人々が広く自由に意見を交わす会議。7つのテーマごとに設置する。

〈カリキュラム調整部会〉

地域課題をふまえて学部・大学院のカリキュラムを調整する。

〈地域リーダー育成部会〉

地域課題をふまえて、年代別の教育カリキュラムを立案し、講座を運営する。

〈地域課題研究部会〉

事業で取り組む地域課題ごとに研究グループを設置して、調査・研究の実施をコーディネートする。

〈アクションプロジェクト運営部会〉

地域課題研究部会からの依頼を受けて、課題解決アクションプロジェクトを立ち上げ、運営をコーディネートする。

〈発信・アーカイブ部会〉

事業の過程および成果を記録し、インターネットを利用して動画配信をおこなう。

【事業評価委員会】

3名の委員(うち2名は庄内オフィスに直接関与していない地域の有識者)により
毎年度、事業の達成状況を評価する(25年度は評価しない)。

課題解決プラットフォーム
「庄内オフィス」

庄内オフィスの各部会は、全体会議、地域課題共有検討会、円卓会議を経て検討された地域課題をふまえて、事業を具体化する。

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」
東北公益文科大学「地域力結集による人材育成と複合型課題の解決—庄内モデルの発信」
庄内オフィスの活動

(平成25年)

- 9月1日 「庄内オフィス事務室」を学内に立ち上げ
- 10月1日 トヨタ自動車株式会社前社長 渡辺捷昭相談役、寺島実郎氏、佐高信氏
採択記念後援会
- 10月9日 地域力を結集するためのプラットフォーム「庄内オフィス」設立準備会
(対象：連携自治体)
- 10月16日 庄内オフィス連携外部団体への内容説明会
(対象：連携各種団体、NPO、組織)
- 10月24日 東北公益文科大学の未来を語る座談会～「地(知)の拠点」としての使命
(本学理事長、学長、理事者による座談会)
- 10月24日 庄内オフィス第1回全体会
(連携自治体、連携各種団体、NPO、組織の代表等：31名参加)
- 10月24日 第1回地域課題共有検討会
(7グループによるディスカッション：70名参加)
- 10月30日 山形県庄内総合支庁と共通の事業推進キャッチフレーズ
「これからの庄内を考えることは楽しい」を発表
- 11月8日 東京イイノホール&カンファレンスセンターにて文部科学省(JST)主催
「地域再生と地(知)の拠点としての大学への期待」に参加。
(約500名来場、私立大学としては本学のみ発表。動画配信中)
- 12月11日 平成25年第13回FSD「地(知)の拠点整備事業」業務仕分けについて 開催
- 12月20日 本学後援会企業向け、地(知)の拠点事業内容説明会 並びに
社長インターンシップ報告会開催

(平成26年)

- 1月23日 発信力入門セミナー 開催
講師：加藤丈晴氏(11年に博報堂退職後、庄内へIターン) 学生参加者：12名
- 1月27日 山形大学COC事業キックオフシンポジウム
(武田地域リーダー育成部会長がパネリストとして出席)
- 2月4日 女性の会ローズへの「地(知)の拠点整備事業」の事業内容説明
- 2月11日 鶴翔同窓会櫛引支部への「地(知)の拠点整備事業」の事業内容説明
- 2月～3月 町田学長による2市3町、庄内総合支庁の首長ヒアリング
2月5日：鶴岡市、庄内町、遊佐町、2月18日：三川町
2月21日：酒田市、3月5日：庄内総合支庁
- 3月17日(月)18時30分～20時
地の拠点円卓会議(第2回地域課題共有検討会)開催
学長による首長ヒアリングの結果をふまえて本事業において取り組むべき課題について、
市民より意見を聴取を行った。